

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年10月27日

[テーマ] 前橋の祭り、イベント—地域の底力に触れる—

今夏から10月にかけて、多くのお祭りやイベントに参加する機会を頂いた。

前橋七夕まつりでは学生、市内園児や、介護関連施設、商店街などさまざまな団体から寄せられた七夕飾りから、作り手の込められた思いが浮かび上がってくるように思えた。前橋花火大会では、利根川対岸から打ち上げられた花火の円形の輪郭のすべてを、遮るものがない状態で見ることができた。このように花火の様子が360度きれいに見えるのは、実はぜいたくなことだ。例えば東京都内の大規模な花火大会だと、人の流れに押されながらビルの谷間から部分的に花火を眺めることになるからだ。

前橋オクトーバーフェストでは秋の心地よい風や、ステージからの音楽に身を委ねながら、地ビールを味わった。前橋まつりでの人の波は、こちらに来てから見たこともないようなものだったし、鼓笛吹奏楽パレード、前橋だんべえ踊りや大人みこしは、聞きしに勝る迫力だった。県内各地でも、この時期には多くのお祭りやイベントがあり、その盛り上がりを見聞紙面等を通じて拝見した。

こうしたイベントは、ハレ、すなわち非日常なのかもしれないが、地域の皆さんの底力や、普段ではうかがい知れない街の一面に触れることができる。新たに当県に転入してきた者にとって発見が多いし、県外からの観光客にとっては魅力ある観光資源だ。交通誘導や案内をしてくださるスタッフの方も親切で、多くのお客さまを温かく受け入れてくれるおもてなしを随所で感じた。

そして、何より、治安を心配せずに心底お祭りを楽しめることに感謝したい。海外では、悲しいことに、多くの人が集まるイベントを狙ったテロ事件が最近相次いだが、そうした懸念は本県では限りなく小さい。こうした安心感は大きな強みだ。

さて、来年はどんなお祭りが見られるのか、早くも楽しみだ。

〔 日本銀行前橋支店長
岸 道信 〕